令和 6 年（2024 年）度　産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：福島県　浪江町
協定締結日：平成 31 年 1 月 31 日
活動状況：継続中
連携先窓口：浪江町役場　農林水産課長　金山信一
活動資金：補助金
担当教員（所属）：菅原　優（生物産業学部自然資源経営学科教授）
活動体制（単位）：大学
関連教員（所属）：髙畑　健（農学部農学科教授）、入江彰昭（地域環境科学部地域創成科学科教授）、山本祐司（応用生物科学部農芸化学科教授）、井形雅代（国際食料情報学部アグリビジネス学科准教授）、范　為仁（生物産業学部自然資源経営学科教授）、上岡美保（副学長　国際食料情報学部国際食農科学科教授）、矢野加奈子（非常勤講師・学術研究員）

活動目的：

東日本大震災・原子力災害からの復興を目指す福島県浪江町は、更なる移住・定住などの人材定着が課題であり、東京農業大学が福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」において、インターンシップ型の教育研究プログラム『インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト』を実施し、地域企業等との連携による各種の戦略的プロジェクトを展開し、農村地域全体の活性化に取り組むことを目的としている。

活動内容・成果：

4 年目となる 2024 年度は、前年度と同様にインターンシップ型教育プログラムを実施した。教育研究プログラムとして「復興浪江学」、「一般農業実習体験コース」、「特別実習プロジェクトコース（新規作物野菜支援、里山景観樹木支援、花卉栽培支援、双葉町農業基本調査）」、「特別インターンコース（いちじく生産組合との連携による商品開発支援、サムライガーリックの栽培支援を含む）」、「新規就農実践講座（夏期現地研修を含む）」、学生プロジェクト（浪江町の特産品販売・PR 等）を実施することができた。（別添資料①）とくに「特別インターンコース」は、浪江町やナミシンカとの連携により農業分野のみならず地元企業

への新たなコース設定を行うことができた。また、「新規就農実践講座」では連携している農業生産法人・舞台ファームでの実習を新たに加え、内容の充実を図った。さらには、浪江町で事業を実施している東北大学からの協力や弘前大学との連携事業といったかたちで大学間の協働活動にも新たな展開をみた。

補助事業に関する成果としては、第 1 に人材育成の観点からは、現地活動とオンラインによる体系的な教育研究プログラムを本学の大学生に対して実施し、現地訪問学生の延べ人数として 382 名の学生が現地活動を行った。将来的な浪江町への交流人口・関係人口として期待できる人材として東京農業大学が独自に認定する「復興支援サポーター」を 32 名輩出した。

第 2 に、地域活性化の観点からは、商品開発につながる活動として、「特別インターンコース」のなかにおいてイチジク生産組合や石井絹江様とのイチジクを活用した新商品開発に向けての現地での活動が活発化し、東京都内での販売イベントにも学生が積極的に関わるなどして浪江町の発信を行うことができた。さらには 2025 年度に向けてサムライガーリックの 6 次産業化に向けたプロジェクトが立ち上がり、現地との協働による商品開発に向けた活動に展開している。

課題・改善点：

事業 5 年目（最終年）となる 2025 年度は、これまでのインターンシップ型教育プログラムを継続しつつ、新規就農や地域企業への就職などにつながる人材定着に向けて、農業生産法人（雇用就農）や浪江町役場、関連地域企業との連携強化を図っていくことがポイントとなる。

イノベ機構の付帯意見によれば、2026 年度以降のプログラムの仕組み（自走の仕組み）を連携自治体、企業との間で協議・構築していくこと（とくにインターンシップ事業)、教育プログラムを実施したことによる変化と成果を発信することが重要となる。

学生による現地活動による教育効果を可視化するなどの工夫が求められてくる。

別添資料：

① 実績報告提出資料（第 7 号様式：ポンチ絵）

「事業名：インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト」2024年度補助事業の実績・成果

東京農業大学　連携市町村：浪江町、双葉町
連携市町村との協定締結日：2019年1月31日　現地拠点：双葉郡浪江町　福島舞台ファーム株式会社

事業のポイント

基幹産業である農業分野を中心に地域産業の担い手育成に向けた教育研究プログラムを『インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト』として、連携協定を締結している浪江町・㈱舞台ファームの協力を得ながら、本学の3キャンパス（世田谷・厚木・オホーツク）の大学生・大学院生を中心に展開し、将来的な交流人口・関係人口となりうる「復興支援サポーター」および新規就農や地域企業への人材輩出につなげる。

今年度の活動実績

事業4年目となる2024年度は、現地活動とオンラインによる体系的な教育研究プログラムを本学の大学生に対して実施し、現地訪問学生の延べ人数として382人日の学生が現地活動を行った。

教育研究プログラムとして「復興浪江学」、「一般農業実習体験コース」、「特別実習プロジェクトコース（新規作物野菜支援、里山景観樹木支援、花卉栽培支援、双葉町農業基本調査）」、「特別インターンコース（いちじく生産組合との連携による商品開発支援、サムライガーリックの栽培支援を含む）」、「新規就農実践講座（夏期現地研修を含む）」、学生プロジェクト（浪江町の特産品販売・PR等）を実施することができた。

双葉町においては、ブロッコリーの収穫体験のみならず、飲食店での新メニュー開発に取り組み、駅西住宅の居住者とも試食会を行うなど、交流を深めることができた。

新規就農実践講座の夏期現地研修（8月）

弘前大学も加わった桜の管理作業（12月）

今年度の成果

第1に人材育成の観点からは、「復興支援サポーター」を32名輩出した。「新規就農実践講座」の夏期現地研修や活動成果報告会では、浪江町の地域おこし協力隊として就職した卒業生からの助言も得ることが出来、今後の人材輩出にも期待が持たれる。また、特別実習プロジェクトでは弘前大学とも連携し、浪江町の絆さくらの会と桜の管理作業を行うなど、他大学との連携交流にも展開できた。

第2に、地域活性化の観点からは、「特別インターンコース」のいちじく班に代表される生産者や道の駅と連携した新商品開発に加え、「浪江復興米」のパッケージ開発、都内の販売イベントにより発信を行うことができた。

第3に、本学と双葉町で2025年2月27日に包括的連携協定を締結した。

ブロッコリー新メニューの試食会（12月）